

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2023年5月1日 236号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



Leda

オニテナガエビ養殖試験

レダのオニテナガエビ養殖池で、成熟エビの水揚げ作業をする人々。2023年4月10日（二面に関連写真）

「自然の厳しさを実感した時」

山崎茂章氏の「オニテナガエビ水揚げ体験レポート」より
去る4月10日午後1時半からオニテナガエビの水揚げ作業をしました。オニテナガエビは寒さに弱く、水温が14℃以下になると死んでしまうことから、通常は冬になる前の5月頃に水揚げをするそうです。今回は、5月に川久保さんが日本に一時帰国されるので、早めに水揚げをしてみようということになりました。水揚げ作業は、養殖チームの川久保さんと澤木さんを中心として、チャボボラ二期生・三期生および従業員、島田家の人々、ほかの有志メンバーで行いました。

最初に全員が養殖試験場集まり、水揚げに使う水槽や網などをトラックに積み込みました。それから養殖池に向かって出発！といっても養殖池までは300mほどの距離です。

現場に到着して川久保さんの説明を聞いてから始めました。各自、捕獲用の手網を持ち、裸足または靴下を履いて池に入り「さあ、捕まえよう！」と意気込みました。でも、池の水は泥だらけで透明度はゼロ。どこにエビがいるのかわからず、皆固まってしまいました。でもしばらく静かに水面を見てみると、何か動いているのがわかるようになり、そこに網を入れると、一匹、また一匹と捕まえられるようになってきました。実は池の水を抜いていたので、次第にエビが姿を現してきたのです。エビの姿と共に他の生き物も目に付くようになり、小さい魚が見つかったり、とんでもなく大きなオタマジャクシがいたり、カエルがいたりしました。

小さい魚は、釣りの餌に使えるので別の池に移しました。エビを捕まえる人、捕まえたエビを運ぶ人、運んだエビの体長や体重を測って個体を仕分けする人など、分業して進めました。体長が10cm以下の個体は小さすぎるので池に戻します。エビを捕まえるのも後半になると、慣れてきて網を使うより手で掴む方が早くなるほどでした。

オニテナガエビの養殖池は全部で五つあるのですが、今回は四つの池で水揚げを行いました。一つ目の池では、個体が小さくてほとんど池に帰りました。二つ目の池ではたくさん獲れました。三つ目の池も個体が大きく、たくさん獲れました。四つ目の池は、大きな魚が2匹いたのですが、大きなエビは2匹しかいませんでした。他のエビはその2匹の魚に食べられてしまったようです。この池には稚エビを500匹入れたようですが、生き残ったのは2匹だけ。たった2匹の魚がいたせいでこんなことになってしまうなんて、自然の厳しさを実感した時もありました。この日収穫したエビは、翌日の夕食として、塩焼きにして皆でおいしくいただきました。



上山氏(前列右から4人目)と大元氏(同5人目)の歓送会。4月11日

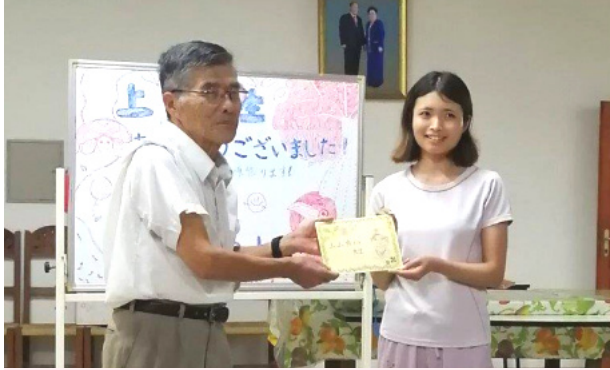


スナップLEDA

エスペランサ村への途上、鏡のようなパラグアイ川。3月27日



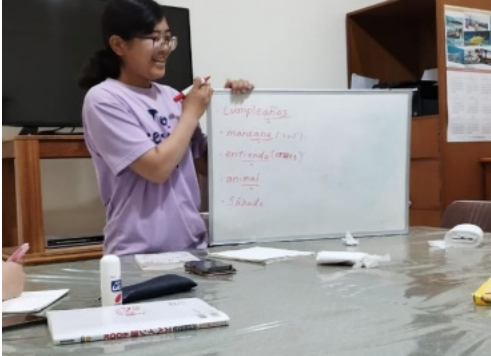
上山氏は最終帰国、大元氏は一時帰国です。23年半、多大な貢献をされた上山氏に感謝の色紙。



大元氏と生きた赤いカニ。



前日収穫したエビを塩焼きに。4月11日



毎週土曜日の夕方にはスペイン語講座。



チャパボラ三期生が農業体験。4月6日



オニテナガエビの水揚げ作業で、捕らえたエビを見せる山崎氏(左)、チャパボラ青年、とも君(右)。4月10日



チャパボラ活動を終えて帰国する井原君と源田君の歓送会。3月30日



チャパボラの第2回エスペランサ村訪問。3月27日

チャパボラ体験者の声

昨年7月から今年2月にかけて、6〜8か月間レダで歩んだチャパボラ一期生を対象に、アンケートを実施しました(現在全員が帰国)。以下、質問です。

- Q1 レダに初めて到着した時の印象は?
- Q2 レダでは何を担当しましたか?
- Q3 レダで最も苦心したことは何ですか?
- Q4 レダで最もうれしかったことは何ですか?
- Q5 今後の抱負をどうぞ。
- Q6 今、日本と世界の皆様に伝えたいことは?

●野口君 (愛称きよん)



A1 施設が思っていたより綺麗で、驚いたのを憶えています。そのことに加え、これからここで半年間過ごすと考えた時に、いまひとつ実感がわかなくて、どうなるか楽しみでした。

A2 レダでは機械や車両

の修繕と、電気作業のアシスタントをしていました。

A3 従業員とのコミュニケーションがスペイン語でしかできないので、そのスペイン語を勉強することも含めて、人間関係がやはり一番ストレスなどを感じて大変でした。嫌なことを言われたり、その人がなぜそんな行動を取るのか理解できないことがあったのです。そこで、接し方を変えてみたり、たくさんの人に相談したり、怨讐と言われる人と話してみたりしました。こうして人との接し方をどのようにすればいいのかを求めていく中で、その「核」を自分の中に作ることができたと思います。日本に帰ってもこの経験は必ず役に立つと思っています。

A4 機械プロジェクトのリーダーであるパブロさんに「きよんは息子だ」って言うてもらえたことです。今まで機械を手伝う日本人の青年がいなくて、僕が初めて機械プロジェクトに来て、そのような言葉をいただけました。違う言語で意思疎通も十分には取れない中で、これからこの人のためにもレダのため

にも頑張ろうと思えた出来事です。そのあとパブロさんには教会の相談や、日本のことや、パブロさんの家族の話など、たくさんのお話を話せたことも、とてもいい思い出です。

A5 自分の中でやりたいと思ったことはすぐ行動に移す。そしてそのやりたいことを中途半端で終わらせるのではなく、最後まで完遂する。

A6 レダは今の「パンタナル通信」を読んでいるあなたの力が必要です。あなた自身がレダに来るか、周りの人の背中を押してレダに送るサポートをするかして、一緒に未来を創っていきましょう。

●太田君 (写真中央)



A1 日本ではあり得ないほど自然が多くて気持ちがいい場所だな、と思いました。

A2 養豚プロジェクトを担当しました。

A3 僕たちがやってきたことを今期だけで終わらせないために、次のチャパボラたちに僕たちがやったこと、やり

たかったことを、どうやって繋いで行くかを考えながら、解かりやすい資料を作ったことです。

A4 (先住民の)エスペランサ村などで、異文化に触れることができたことです。

A5 学びと挑戦の精神を持っていきたいです。

A6 みんなもレダに貢献しよう!

●田淵君 (釣ったボガと)



A1 何もかもが新鮮でキラキラして見えました。(ワクワク感いっぱい)

A2 総務です。後に水づくりも担当しました。

A3 4種の魚釣りに挑戦。

A4 ボガ40匹釣り達成!

A5 レダで培ったものを糧に、前進あるのみ!

A6 レダに、VAMOS! (バモス!!行こう!)

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

「日陽園便り」は Facebookで

日陽園の最新ニュースは、Facebookを利用してレダの活動現場から発信しています。

その主力を担っているのが、チャパボラ(チャコ・パンタナル・ボランティア)たち。若者たちのフレッシュな感性によって発信されるニュース、写真、動画などを、ぜひご覧ください。



コメント欄から、皆様の感想、励ましなどのメッセージを、レダの人々へ送ることもできます。

<https://www.facebook.com/groups/1816339478591894/> (ご利用になるには、Facebookの個人アカウントが必要です)

レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>